

第 4 回 A L P S 処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた
関係閣僚等会議ワーキンググループ

福島県旅館ホテル生活衛生同業組合 小井戸英典

まずは、書面にての意見となりますことをお詫び申し上げます。

資料「これまでいただいた御意見と基本方針等における対応・・・」を精読しました。

風評被害が生じた場合の賠償等の対応では、原子力損害賠償紛争解決センターによる和解の仲介に、東京電力が応じないと云う事案も多々、聞き及んでおります。政府からも強く指導をお願い致します。

風評対策として、関係者向けの説明会は開始されているようですが、一般、また、無関心の方にも、関心を持ち、正しく且つ分かり易く理解できる工夫と内容を熟考しているとのことで、期待しております。

福島県への観光客の誘致に向けては、「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進事業」の選定など、ありがとうございました。

福島県に、実際に足を運んで、来て、見て、味わって、心を触れ合わせていただくことが、風評払拭には最も効果的です。

しかし、アフターコロナとなっても、風評は、福島にとって、他県には無いハンディキャップです。ある温泉地の女将は「ほかの県と違い、福島は、重荷を背負わされ障害のある悪路で走っているように感じます」と話していました。

ですから、今年のGoTo トラベルキャンペーンは、地域全体にとり、まさに光明で、経済的効果を齎しました。

そこで、今後の風評を踏まえ、当県を訪れる宿泊旅行に対する継続的な助成（インセンティブ）制度を確立しては頂けませんでしょうか？例えば、「GoTo ふくしま」のような。

福島県は、あの複合災害から 10 年間、政府の皆様方からお力添えをいただきながら立ち上がる努力をしてまいりました。

そして、風評払拭を目指して少しずつ積み上げても、簡単に崩されてしまうことを何度も経験してきました。

観光産業は関連する裾野も広く、来訪者に「衣食住」を提供し、地産地消や歴史や文化、防災教育も含めた地域づくりとも連動しています。

「観光振興」は「地域づくり」であり、『福島県のイメージアップ』は『世界から見た日本のイメージアップ』であり、『福島の復興、再生の道筋を示す事は日本としての国力を世界中に示す事に繋がる』と考え行動しています。

オリンピック・パラリンピックは勿論、2025年の万博で、フクシマの再生した姿を世界中に発信し、『真の復興・再生』を果すため、知事の下承の基、「福島県の観光産業のグランドデザイン」を、福島県と共同で策定しているところです。

そして、このグランドデザインの基、今後、より一層、ソフト・ハード面ともに、官民共同で、ぶれること無く、戦略的に観光産業の構築をはかっていく所存です。

今後も、福島県の未来に向けて、これまで以上のご支援をいただけますよう、心からお願い申し上げます。